

山田輝子先生を偲んで



◆ 略 歴

- 1943年 愛知県に生まれる
- 1966年 国立音楽大学声楽学科卒業
- 1975年 林学園女子短期大学児童教育学科講師
(1980年4月 大学名を江南女子短期大学と改称)
- 1980年 江南女子短期大学児童教育学科助教授
- 1992年 江南女子短期大学教養学科助教授
(1998年4月 大学名を愛知江南短期大学と改称)
- 2000年 愛知江南短期大学教養学科教授
- 2008年 愛知江南短期大学現代幼児学科教授
- 2008年 10月25日 ご逝去

◆ 学内における役職歴

- 2002年 4月～ 2003年 3月 学生部長
- 2003年 4月～ 2004年 3月 教養学科長
- 2005年 4月～ 地域協働研究所運営委員長

◆ 社会における役職歴

- 1994年 4月～ 1997年 3月 国立音楽大学同調会愛知支部長
- 1997年 4月～ 国立音楽大学同調会愛知支部参与
- 2005年 6月～ 江南市社会教育委員 (兼江南市立公民館運営審議会委員)
- 2006年 1月～ 江南市文化会館運営委員長

◆ 研究分野

- 声楽、音楽教育

所属学会

全国大学音楽教育学会、中部地区大学音楽教育学会、名古屋合唱団、日本ショパン協会

主な研究業績

1. 演奏発表：廣瀬量平、シューベルト、他 長久手文化の家 森のホール (2007)
2. 演奏発表：廣瀬量平、ヴェルディ、他 長久手文化の家 森のホール (2006)
3. 演奏発表：三善晃、山田耕筰、他 瀬戸万博長久手会場 (2005)
4. 演奏発表：林光、コメディヤ・インサラータ、他 愛知県芸術劇場 (2002)
5. 演奏発表：三善晃、五柳五酒、他 愛知県芸術劇場 (2001)
6. 山田：音楽の嗜好に関する研究 愛知江南短期大学紀要 29号 45-50 (2000)
7. 演奏発表：MASCAGNI「カバレリア ルスチカーナ」「イリス」より 愛知県芸術劇場コンサートホール (1998)
8. 山田：現代生活における音楽の役割 -その2 音楽の特性に関する考察- 江南女子短期大学紀要 26号 29-35 (1997)
9. 山田、他 共著：音楽の基礎「音楽理解ははじめの一步」音楽之友社 39-57, 219-243 (1997)
10. 演奏発表：SCHUMANN「ミルテの花」「女の愛と生涯」より 日暮里サニーホール (1997)
11. 山田、他 共著：「ピアノ導入メソッド」初心者の音楽表現テクニック 全音出版 (1993)
12. 山田：現代生活における音楽の役割 -その1 人間にとって音楽とは?- 江南女子短期大学紀要 22号 1-7 (1993)
13. 山田、他 共著：「音楽リズムのためのピアノ奏法」学術図書出版社 65-70, 112-115 (1988)

山田輝子先生を偲んで

突然に、本当に突然に先生のご訃報をお聞きし未だに信じられません。お姿がない今も先生
のやさしいお声が耳から離れないのは皆同じと思います。

先生は1975年に本学に赴任されました。児童教育学科、教養学科、現代幼児学科に在籍され、
その間各種委員、学生部長、教養学科長、地域協働研究所運営委員長を勤められました。特に
地協研では渉外活動も多い中、先生のお人柄とそのフットワークのよさで運営を円滑に進めら
れていました。

先生と私はほぼ同時期に本短大に在職し、共に学生の音楽教育に携わって参りました。専攻
分野が同じということで教育指導上の苦労話に熱が入ることも多々ありました。先生は学生一
人ひとりに対して優しく丁寧に指導をされ、学生からの信頼も篤く研究室にはいつも温かく学
生を迎え入れておられました。学科を離れてからはあまりお話する機会もなく、事務室であい
さつを交わすことくらいで「あら、お元気？」と声をかけて下さったのが最後の言葉となっ
てしまいました。

またお互い自家用車を買替えるのが同時期、通勤に何台走り潰したことでしょう。仕事と
家庭を両立させる苦労は誰でも同じですが、先生は帰途のあの一時停止地点で一足先にネズミ
捕りにひっかかっていた。警察車両の中、二人で小さくなっていたことがなつかしく想い
出されます。

ご家族からお聞きしますと先生は「私はいつも前を見て生きている」「私は人の何倍も充分
に生きてきたので何も悔いはない」とおっしゃられていたとの事。私も先生に対しては全くそ
の様な感想を持ちます。先生は人生を情熱的に生き抜かれました。地協研において先生は11
月29日開催の公開講演会「講演とコンサート」で締め括られました。寂光院住職による深く
身に沁みる講演とお嬢さんによるコンサート、プログラムのバッハ「主よ人の望みの喜びよ」
は先生ご自身が選曲されていたそうです。そしてお嬢さんから捧げられたシューマン＝リスト
の「献呈」とすばらしい演奏でした。先生もきっと会場のどこかでお聴きになっていらしたこ
とでしょう。図らずも追悼コンサートとなってしまいました。

今講義室に、研究室に先生がおられないのが不思議です。電気がついてないことがとても寂
しいです。先生のにこやかな笑顔とやさしいお声は決して忘れることはないでしょう。先生、
本当にありがとうございました。

合掌。

(社会福祉学科長 鈴木 秀代)